

企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局 広告特集

これからの人間教育と教師のあり方について

桃山学院教育大学シンポジウム

紙上採録

主催/学校法人桃山学院 共催/朝日新聞社メディアビジネス局 後援/大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、和泉市教育委員会、京都府教育委員会、京都市教育委員会

来年4月、大阪府堺市に誕生する桃山学院教育大学。西日本唯一の私立教育大学として、全国トップレベルの教育者の育成を目指します。これを記念して9月17日、中之島会館(大阪市)で「桃山学院教育大学シンポジウム」が開催されました。各界で活躍する有識者が、今後の人間教育と教師のあり方について意見を交換。その模様を要約してお届けします。

基調講演

「これからの教育に求められること」

教育と地方自治

片山 善博氏
早稲田大学公共経営大学院教授



教育のミッションは知的自立心を育むこと

鳥取県知事として教育行政に携わった経験と、6人の子が公の教育にお世話になった体験を踏まえてお話しします。私の考える教育のミッションは、「知的自立心を育むこと」。教師には、子どもが将来、社会で遭遇する課題を見つけ、自ら問題解決できる力を養っていただくたい。それには、教師自身が知的好奇心にあふれ、生涯学習の姿勢を持たねばなりません。ただ、今の教師は大変です。いじめや不登校は深刻化し、部活動の休日出勤、書類の多さなどが多忙化を招いています。学校現場のこうした課題は、なぜ改善されないのでしょうか。率直に言うと、学校の経営陣である教育委員会のマネジメントがうまくいっていないから。例えばフィンランドでは、不登校児の多い学校にメンタルケアの専門家を配属します。担任はクラスに不登校児がいれば、教頭のような立場の教師に引き継ぎ、専門家が対処します。日本では、担任一人が不登校児とクラス全員の対応に追われ、力尽きます。問題が起きた時、学校

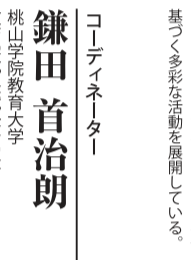
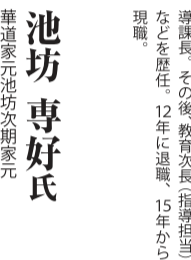
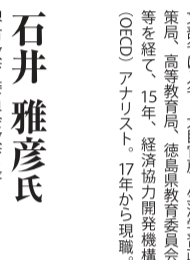
「これから求められる教師のあり方とは」

人間力ある教師をどう育成するか

パネリスト 片山 善博氏



白井 俊氏



教師の人間力が子どもの力を引き出す。求められる教師のあり方とは何か。善博氏が問いかけます。白井「知的好奇心を喚起する授業」を行う力です。PISA(PIISA)など国際学力調査で「学力」が「国際学力調査で「学力」の意味がわからない」と答える子どもが日本は他国より多い。各教科の楽しさを実感させる指導をお願いしたいし、自らアグレティブラー(能動的学習者)になってほしいです。石井 堺市の小学校教師を経て、教育委員会では数多くの小中学校で実際の授業を見てきました。その経験から言うと、教師の人間力は子どもとの感情の共有化です。うれしいうちに一緒に喜ぶか、うれしいうちに寄り添えるか、子どもは担任が、本当に自分を大切にしているか見えています。池坊 主に国際関係や外国語を学ぶ大学の学部で、生け花を教えます。グローバル化が進み日本人はどんな存在か、根源的な答えが伝統文化に求められているのでしょ。生け花は技術だけでなく、日本の美意識や自然の捉え方も学ぶ。一木一草を大切に思い、自分より弱い存在を思いやる心を育てます。成果主義ではない、こうしたままなことも大切。白井 芸術科目は重要です。白井 キャンパスに描く美術、静かな空気の振動から始める音楽などは、勇気や創造力を育みます。また、今の子どもは読書力が落ちました。大学のゼミで、この本はこの観点で読むと面白いです。と、メキメキ成長する学生本を読み、自らを高める生活習慣を身につけていただきました。子どもの心に響く指導法は多彩。鎌田 では、求められる教師の指導とは何でしょうか。石井 かつての堺市は、不登校や授業に充実感のない子どもが多く、「授業で居場所と出番を作る」をテーマに改善を果たしました。学校が一番長く過ごす授業で、どれだけ自己実現させるかが教師の役割です。また、教師がノートに赤ペンでコメントを多く書く学校ほど、学力が

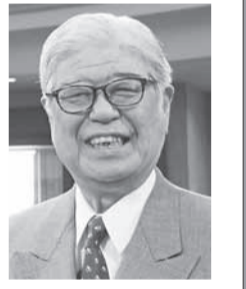
高く生徒指導の問題は少ない。赤ペンに限らず一対一で声をかけ、教師の思いを子どもに届けること。片山 赤ペンは、子どもに張り合いを与え、きちんと評価されることで頑張ろうという動機付けになる。教師は子どもの動機付けを丁寧にすべきですが、そのための時間的、精神的余裕がないのが現状。現場の環境改善が求められる。池坊 伝統文化は型の繰り返しで、その日の自分がわかるし、心が整い、解放できます。そんな人間の根っこを太らせる部分で学習成果がみつかるような指導をお願いしたいと思えます。白井 国際的な議論によると、子どもに必要な力は「基礎」と「応用」の2段階。活用を重視するのがPISAですが、教科書の文章をきちんと読めない子どもが一定数いるとの指摘もあり、基礎についても懸念されています。池坊 16世紀の家元の言葉「枯れた花にも華がある」に、学生は反応します。あらゆる植物のあらゆる時に輝きがある、という意味です。現代は情報やモノに恵まれているからか、自己肯定感の低い人が多い。ありのままを受け止める言葉にひかれるのでしょ。白井 「チーム学校」にとどまらず、社会全体で教師を育てることも必要。学校だけで困難な問題は、地域で話し合い解決できることもあります。教師と保護者の連携のサポートも、自治体や教育委員会の役割です。池坊 教育は、知識のある人からない人へ渡す作業ではなく、双方向のもの。社会全体が教師の場で、誰もが人生の教師であり生徒。それぞれが生き方に自覚を持ち、謙虚に学び合いたいものです。鎌田 心に残る言葉がいつか思い出された。それを生かせるよう、桃教は頑張ります！



パネリストディスカッション「これから求められる教師のあり方とは」～人間力ある教師をどう育成するか～

135年の伝統を礎に “学生を大化けさせる” 桃教の新しい人間教育

桃山学院教育大学 学長就任予定者 梶田 叡一
桃山学院は1884年、英国人宣教師たちにより創設され、1959年に桃山学院大学を開学しました。来年4月に誕生する桃山学院教育大学(略称:桃教)は、桃山学院二つ目の大学。135年の歴史と伝統を踏まえ、キリスト教精神を土台とした新しい形の教育に取り組めます。今、設立を準備する私たち教職員は、「桃教で学生を大化けさせよう」という願いを持ちます。その中身は、人間力をつける人間教育。卒業生は、教師など教育的な様々な仕事に就き、指導する若い方をまた大化けさせる。そんな社会人として活躍できるよう、私たちは全力を尽くします。桃教は、西日本で唯一の私立教育大学ですが、それを超えて「日本に桃教あり」と言われる大学に育てるつもりです。皆様、今後の桃教をどうぞよろしくお願いたします。



かじた・えいち●大阪大学、京都大学教職を経てノートルダム女子大学(現京都ノートルダム女子大学)学長、兵庫教育大学学長、中央教育審議会副会長など要職を歴任。

*PISA(ピサ): Programme for International Student Assessmentの略。OECD(経済協力開発機構)加盟国を中心に3年に1回実施される15歳児の学習到達度調査。主に読解力・数学のリテラシー・科学のリテラシーなどを測定する。

ここで変わる。自分も、未来も。

学校法人 桃山学院

公募制推薦入試

桃山学院大学と桃山学院教育大学は、同一試験日・試験場・試験問題で実施し、両大学を併願することも可能です。

桃山学院大学のみ[専門学科、総合学科推薦入試/特別活動推薦入試]も実施

(インターネット出願のみ)

前期	出願期間	11/1(水)~7日(火)
	試験日	11/13(月)・14日(火)
後期	出願期間	11/21(火)~12/4(月)
	試験日	12/9(土)

両大学共通お問い合わせ先: TEL.0725-54-3245(桃山学院大学入試課直通)

世界が変わる体験がある。

2019年、開学60周年を迎えます。

桃山学院大学

St. Andrew's University

国際教養学部/英語・国際文化学科 社会学部/社会学科、社会福祉学科 法学部/法律学科 経済学部/経済学科 経営学部/経営学科

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1-1